

塩化ビニル樹脂系シート防水改修工法用 下地チェックシート

調査日		物件名称		建物構造・調査部位	
調査者		所在地		既存工法	

調査項目

No.	調査項目	調査結果 (該当するものに○をつける)			ES工法判定基準
		劣化度Ⅲ	劣化度Ⅱ	劣化度Ⅰ	
1	漏水発生の有無	有り	有り * 止水処置容易	無し	漏水がないこと
2	断熱材の有無	有り * 断熱材劣化あり	有り * 断熱材に異常なし	無し	既存に断熱材がないこと
3	防水材の破断、損傷	防水層の破断	防水層の(表面層)ひび割れ	外観上の異常を認めず	既存防水層に破断・損傷がないこと
4	防水層の端末はく離	押え金物・固定金物の脱落、張り仕舞・ドレン部のはく離、口開きあり	押え金物のゆるみ、端末部シールのはく離、端末に近接するふくれ・浮き上がりあり	外観上の異常を認めず	既存に端末はく離がないこと
5	ルーフィング接合部のはく離幅・ずれ幅 (初期接合部は、塩化ビニル樹脂系シートは40mmとした)	面積の50%以上	面積の20～50%	面積の20%未満	面積の20%未満
6	防水層立上り隅浮きフクレ高さ	50mm以上	30～50mm	30mm未満	30mm未満
7	防水層表層の劣化	防水層表層の消失	防水層表層の減耗および白亜化	防水層表層の変退色	防水層表面にひび割れがないこと
	保護仕上材の有無、材質の確認	有り(材質:) 無し			
8	防水層のふくれ・浮き	面積の30%以上 <small>機械的固定工法の場合、固定金具・ビスの浮き上がり、固定金具とシートのはく離あり</small>	面積の10～30%	面積の10%未満	面積の10%未満 <small>機械的固定工法の場合、固定金具・ビスの浮き上がり、固定金具とシートのはく離がないこと</small>
9	水溜りの有無	有り: 面積の10%以上 段差10mm以上	有り: 面積の10%以上 段差10mm未満	有り: 面積の10%未満	段差10mm未満
10	防水材内への雨水の浸入	有り(%)	無し		浸入が無いこと
備考					

*上記判定基準に満たせない場合は、既存塩ビシート防水改修サレーヌES工法は適用しない。

ただし、判定基準が満たせない項目を既存塩化ビニル樹脂系シート防水改修用是正処置方法(案)に記載する適切な処置で処理し、判定基準を満たした場合は除く。

仕様提案

推奨防水改修仕様	
下地処理	

既存塩化ビニル樹脂系シート防水改修用是正処置方法(案)

No.	調査項目	是正処置方法(案)
1	漏水発生の有無	(止水処置が容易な場合)漏水原因を確認し、止水処置をとる。
2	断熱材の有無	断熱材の浮きを固定金具で固定し、必ず遮熱保護仕上げとする。なお、防水層内に水が回っている場合や軟質系(ポリエチレン系)断熱材は撤去する。
3	防水材の破断、損傷	既存同質防水材で部分補修を行う。挙動による破断の場合は、フラットバー等で固定する。
4	防水層の端末はく離	既存防水層を部分撤去し、下地調整後ウレタン防水仕様とする。既存防水層撤去端部は、必要に応じてフラットバー等で固定する。
5	ルーフィング接合部のはく離幅・ずれ幅 (初期接合部は、塩化ビニル樹脂系シートは40mmとした)	補強貼りする等の破断予防の対策をとる。
6	防水層立上り隅浮きフクレ高さ	密着工法の浮き部は固定金具やフラットバーにて固定する。劣化度Ⅱ、Ⅲは、立上り部全撤去。下地調整後ウレタン防水仕様とする。
7	防水層表層の劣化	-
8	防水層のふくれ・浮き	ふくれ・浮き部分を撤去し是正(既存同質防水材で部分補修)後、フラットバー等で固定する。
9	水溜りの有無	水勾配を是正したり、排水溝等を設置する等、排水処置を講じる。
10	防水材内への雨水の浸入	残留水を除去し、既存同質防水層で部分補修を行う。